

開始時刻	終了時刻	氏名	所属	申込種別	発表題目	発表概要
【セッション 人間中心設計とプロセス 座長：吉武良治氏(芝浦工業大学)】						
12:30	12:50	秀島栄三	名古屋工業大学	口頭発表	土木施設の維持管理の効率化のための業務プロセスのリデザイン	土木施設の維持管理の効率化が求められている。ライフサイクルコスト低減による経済性の追求については多く研究されているが、作業工程の改善、簡素化などについては進んでいない。本研究では、維持管理に携わる実務者を主体に考えた作業工程のモデリング、リデザインを行い、ユーザとしての実務者の評価を得て、維持管理業務の合理化を進める。
12:50	13:10	西村歩	慶應義塾大学大学院	口頭発表	人間中心設計を“取り入れている”の解釈に関する考察	人間中心設計は、ユーザビリティを向上させるためのデザインプロセスとして幅広く受け入れられてきた。ところで人間中心設計の理論探求と実践の架橋をめざす上では「この製品のデザインプロセスでは人間中心設計を取り入れている」という事実をどのように認証すべきか問題となる。例えば「人間中心設計の存在を認識していないデザイナーが最善のデザインを追求した結果、人間中心設計のデザインプロセスに則っている側面が見られた」場合、そのデザインプロセスは「人間中心設計を取り入れている」と承認すべきのだろうか。本稿で議論する主題は、人間中心設計の事例研究における「事例選択」の基準を明確化するという課題ともいえる。
13:10	13:30	酒井章	武蔵野美術大学大学院	口頭発表	「先見の明」のある人財が育つプロセスとメカニズム	日本における労働環境の変化とそれを支えるインフラとの間に生じているギャップによって、働く現場へのひずみが拡大し、企業等の組織を変革する意志と行動力を持つ人財が減少しつつある。こうした問題意識に根差し、これからの日本に望まれる「先見の明」のある人財を生み出すプロセスとメカニズムを検証する。
【セッション 人間中心設計の手法とツールの開発 座長：飯尾淳氏(中央大学)】						
13:40	14:00	鈴木舜也	和歌山大学	口頭発表	眼球運動に基づくVRコンテンツ評価支援ツールの提案	VRコンテンツの評価は没入感などを実験的に検討したものはあるが、コンテンツ制作者向けのものは少ない。そこでアイトラッカ搭載のVRヘッドセットから得られる眼球運動情報を基に、コンテンツ評価を支援するツールを作成した。
14:00	14:20	佐々木将之	ギルドワークス株式会社	口頭発表	質的データ分析とユーザー価値分析手法のKA法を組み合わせた質的分析法の研究	これまで、ユーザー価値分析手法のKA法を用いて、ユーザー起点での発想を支援する取り組みを実施してきた。しかし、KA法では途中の過程が明示的ではない箇所があり、どのように発想を広げているのか不明瞭になってしまうケースがあった。そこで、分析手続きが明示的である質的データ分析手法であるSCATと組み合わせ、分析過程を明示することにした。これにより、他者と解釈の共有がしやすくなり、チームでの質的分析活動ができるのではないかと考えた。その経過を報告する。
14:20	14:40	泉瑠々子	和歌山大学	口頭発表	眼球運動に基づく視対象の分類及び心理状態の推定	文章や図といった視対象の区別および焦りや戸惑いなど心理的に負荷がかかっている状態の推定を目的とする。本研究では、アイトラッカから取得できる視線位置、瞳孔径といったデータから得られる特徴量だけで推定を試みた。
【ビデオセッション】						
14:40	15:10					
【セッション 人間中心設計の評価手法と事例 座長：松延拓生氏(和歌山大学)】						
15:10	15:30	堀 雅洋	関西大学	口頭発表	多言語校務文書検索ツールにおける主題分類の再評価と実システムへの適用	筆者らは、日本語を母語としない児童生徒を受け入れている教育現場で利用される多言語校務文書検索ツールを開発・運用してきた。本発表では、文書内容に関する現状の主題分類を見直すとともに、カードソート法を用いた評価結果について報告する。
15:30	15:50	山田菊子	東京工業大学	口頭発表	建設コンサルタントにおけるユーザー調査マニュアル利用者のペルソナ策定	建設コンサルタントがユーザー調査を実施する機会が増加している。そこで業務実施の際に参照する調査マニュアルを、HCDプロセスに則り策定することとした。本稿ではこのうち、マニュアル利用者のペルソナ策定の過程を紹介する。